

J Aおちいまばり第7次中期計画重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業（平成30年度第4四半期）

ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochiimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元氣な地域農業の復活！！」に取り組みます。								
重点方針	重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成30年度の目標値	実績値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
1	地域農業を守るグループ単位の営農経営支援体制の構築	農業者の育成と経営支援を通じた農業経営者の育成	農業経営支援体制の構築に向けて、担い手の農業簿記帳代行事業への取り組み人数を増大します。	平成28年度は700人、平成29年度は710人、平成30年度は720人をめざします。	年次720人	652人	90.6%	H30年確定申告について税理士協会今治支部と会合を行いました。また、各グリーンにおいて個別勉強会を開催しました。	適切かつスムーズに確定申告が行えるよう、各担当者レベルの高位平準化と記帳代行業務の業務改善を検討します。引き続き派遣税理士と協力していきます。	営農企画課
			地域社会への農業提案として、新たな担い手や生活者に向けて、本気の農業体験、みんなの農業講座、担い手意見交換会等を開催します。	各種提案活動の年間12回実施を3年間継続します。	年次12回	12回	100.0%	きゅうり、みかんの収穫体験の実施、農業講座の実施、担い手の法人化の個別相談対応、集落営農実践リーダー育成研修会（視察）を実施しました。	収穫体験の企画、実施、集落営農実践リーダー育成研修会の開催をし、地域農業の担い手育成や候補者の掘り起こしを行います。	営農企画課
		農業者の所得増大に向けた重点品目の設定・生産から販売までの取り組み	【きゅうり】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積70a増加を3年間継続します。	基準値より210a増の14.2ha	10.3ha	72.5%	新規栽培者募集の呼びかけを行った。結果、7名の新規栽培者が増加しました。	新規栽培者に対して、重点的に指導を行い栽培技術の高位平準化を図ります。	営農指導課
				基準値から販売高1,630万円増加を3年間継続します。	基準額より4,890万円増2億3,730万円	2億2,695万円	95.6%	集荷場における選別体制の整備を行い、適正な規格で出荷できるよう啓蒙した結果、格外品率が1割減少し、整品率が向上しました。	入念な打合せを行い、定期的に選別講習会を行うことで、集荷場、指導員、生産者の選別の精度を上げていきます。	営農指導課
			【里芋】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積150a増加を3年間継続します。	基準値より450a増13ha	16.4ha	100.0%	新規栽培者獲得に向け推進を行いました。（新規栽培者11名）大口生産者のさらなる規模拡大に向け、作業効率の改善指導や作業機械の提案推進を行いました。	推進の結果作付面積が拡大し、新規栽培者も増加したため、各グリーンや担当指導員と連携し栽培指導を強化していきます。	営農指導課
				基準値から販売高681万円増加を3年間継続します。	基準額より2,043万円増6,583万円	6,896万円	100.0%	拡大する生産量を安定して販売するため販促活動に努め消費拡大のPRを行っています。	伊予美人のファンを作る為、広域選果の利便性を生かして全国に出荷していきます。	営農指導課
			【はれひめ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量90 t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より270t増750t	256t	34.0%	9月上旬に全園調査を実施しましたが、豪雨の影響で黒点被害が多発したうえ、裏年にあたり数量減少の大きな要因となりました。	隔年結果は正のため、着花対策を徹底します。豪雨被害からの樹勢回復もあわせて行います。	営農指導課
				基準値から販売高1,944万円増加を3年間継続します。	基準額より5,832万円増1億6,200万円	8,200万円	51.0%	特撰品「瀬戸の晴れ姫」を中心としたギフト対応の契約販売の強化と、販売店舗を固定し、販売を行いました。	契約数量確保に向け共選場、営農指導員との連携を図り生産状況の共有を図ります。販売数量を安定し、売り場の確保を行います。	営農販売課
			【紅まどんな】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量62 t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より186t増449t	234 t	52.0%	各地区での栽培講習会を開催しました。品質向上のためのマルチ栽培の推進を行いました。が、高温乾燥のため、小玉果傾向となりました。	来年度の樹幹拡大と収量増のため、収穫後の樹勢回復と土壌管理の推進を行います。	営農指導課
				基準値から販売高3,547万円増加を3年間継続します。	基準額より1億641万円増2億5,605万円	1億5,800万円	62.0%	生産量に応じたギフト対応等の契約販売の強化と、店頭販売をふまえて量販店対応を行いました。	契約数量確保に向け共選場、営農指導員との連携を図り生産状況の共有を図ります。2L上を生産し、ギフト商材の価値観を高めま。	営農販売課

J Aおちいまばり第7次中期計画重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業（平成30年度第4四半期）

ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochiimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元氣な地域農業の復活！！」に取り組みます。								
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成30年度の目標値	実績値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
2	所得増大につながる生産・販売・購買の新たな取り組み	【甘平】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量77 t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より231t増 449t	141 t	31.0%	各地区での栽培講習会を開催しました。隔年結果と乾湿差が大きかったことが数量減の要因となっています。	基本管理（土づくり）の指導を勧め、隔年結果の是正と数量の安定を図り、裂果と品質向上対策を引き続き行い、安定生産へ繋げていきます。	営農指導課	
			基準値から販売高3,339万円増加を3年間継続します。	基準額より1億17万円増 1億5,750万円	8,700万円	55.0%	生産量に応じたギフト対応等の契約販売の強化と、3kg箱、5kg箱を併用し、売り先によって販売を行いました。	契約数量確保に向け共選場、営農指導員との連携を図り生産状況の共有を図ります。安定した出荷を行い、売り場確保に努めます。	営農販売課	
			【キウイフルーツ】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から出荷量6 t増加を3年間継続します。	出荷量基準値より18t増 679t	420 t	61.8%	現状の面積維持をしながら新規栽培農家を獲得するため提案を行いました。高温被害の影響が大きくなっていきます。	土づくりや適正施肥の指導で極端な気象に耐える樹勢の強化を図ります。	営農指導課
				基準値から販売高263万円増加を3年間継続します。	基準額より789万円増 2億8,220万円	1億6,562万円	57.5%	契約販売を強化し、生育状況にあわせた階級等の商談。また、出荷時期を調整し、価格の底上げを行いました。	契約数量確保に向け共選場、営農指導員との連携を図り生産状況の共有を図ります。	営農販売課
			【花木】の生産販売拡大に取り組みます。	基準値から栽培面積80a増加を3年間継続します。	基準値より250a増 2.9ha	3.34ha	100.0%	部会内で苗木を作り部会員へ供給を行うことで安価な初期経費と未収益期間の短縮を図っています。また各地区で栽培説明会を行い、できるだけ花木について知ってもらえるようにしました。	出荷量が増えてくるなかで、販売先へ向き産地PRと販売促進活動を行い、需要を掘り起こすことで単価の維持・向上を図っています。また新規出荷者が増えてくるなかで、出荷説明を講習会や個別に行うことで規格の統一や出荷体制の整備を行っていきます。	営農指導課
				基準値から販売高523万円増加を3年間継続します。	基準額より1,569万円増 1,800万円	1,582万円	87.8%	年間において出荷ができる規格作りと、需要・知名度・単価向上のため市場や販売店への販促活動を実施しました。	需要に対応できる生産量の確保を図り、安定した生産販売できる取出荷環境作りの確立をめざします。	営農指導課
		生活者への情報発信を通じた信頼関係の構築による『おちいまばりブランド』の創造	マーケットイン(実需者ニーズ)に基づく農家への契約販売を実施し、グローバル戦略と地産地消の取り組みに努めます。	取扱高について、平成28年度は1.7億円、平成29年度は1.85億円、平成30年度は2億円をめざします。	取扱高2億円	1億6,873万円	84.4%	紅まどんな、はれひめを中心に物販した。緩かくやIVの放送により引き合いが強かった。だが柑橘の絶対量が少ないうえ、野菜の豊作低価格など、購買意欲は低下、食品事故による店舗のイメージダウン・人不足など、いくつもの障害がかさなり、目標値に達する事は無かった。	第3四半期は柑橘の贈答用を中心に始まったが、人員不足により一部取扱を中止することとなった。対応として、1月から事務所職員が交代で対応し再開したものの、柑橘の品薄、野菜の豊作低価格などもあり購買意欲は低く需要もすくなかったが、思うような売込みが出来なかった。次年度に向け、対策を練り、出直す。	直販課
		生産資材の安価供給や新しい価値を提案できる購買事業への取り組み	大口値引き対応等、目に見えて実感できる農家経営支援対策によって、大口供給や予約購買を充実し安価供給に取り組みます。	目に見えて実感できる農家経営支援対策を年間3品目以上、3年間継続します。	年間3品目以上	3回	100.0%	ペンコセブ・ラウンドアップ・ザクサについて特売を実施しました。	継続して安価供給に取り組みます。	経済課
				大口値引き対応について、年間4品目以上を3年間継続します。	年間4品目以上	4品目	100.0%	ファイト・活性ぼかし・苦土石灰・サンライム・しあわせ化成において実施しました。	継続して大口値引き対応を実施します。	経済課

J Aおちいまばり第7次中期計画重点実施項目進捗管理表（平成28年度～30年度）

営農経済事業（平成30年度第4四半期）

ビジョン・目指すべき姿		農業者の所得増大と地域農業の活性化に向け、平成30年度での販売高68億円をめざします。そのため農業振興計画（ochiimaレインボープラン）でより詳細な具体策を実施し、平成32年度での販売高70億円をめざし「元気な地域農業の復活！！」に取り組みます。								
重点方針	最重点実践方策	代表的な施策	3年間（平成28年度～平成30年度）の目標	平成30年度の目標値	実績値	達成度%	主な取組事項	今後の方針・課題	担当部署	
3	機動的な営農経済事業体制の確立	営農・経済事業の取り組み強化	出向く営農指導体制の強化に取り組みます。	TACの訪問件数について、月50件達成者100%を3年間継続します。	月50件達成	達成	100.0%	毎月の計画的な訪問を実施し、農家担い手の課題解決に向けた取り組みを行いました。	地域農業の継続に向けた、新たな取り組みを検討し、実施していきます。また、引き続き経営相談にも対応する指導員育成を実施します。	営農指導課
			継続的に事業推進できる「人間力」のある営農職員の育成に努めます。	指導技術向上のための栽培試験実施について、取組率100%を3年間継続します。	取組率100%	22名	100.0%	知識向上に向け、講習会、研修会の参加を積極的に行いました。	指導員の研究発表大会開催など、指導員の技術や知識向上自己啓発に努めました。	営農指導課
			部門間連携による総合的な農家支援体制の構築を図ります。	作業前点検の実施について、年次300件（5名×1人60件）を3年間継続します。	年次300件（5名×1人60件）	456回	100.0%	農家個々の農機具の作業前点検、格納点検の癖づけができてきました。作業前点検の啓蒙を実施しました。	修理点検が中心になり、新車販売が厳しい状態ですが、利用者満足度を上げるため、積極的に作業前点検の啓蒙に取り組みます。	経済課